

## 当クリニックとご利用者さんをつなぐ



菊地 達夫 (きくち たつお) さん  
主任相談員



わたしは、直接ご利用者さんに何かを提供するわけではなく、当クリニックの“窓口”の一つです。たとえば、当クリニックに通院を希望する方がいた場合、わたしが直接ご利用者さんにお会いし、事前に情報を集めさせていただき、通院するまでの段取りを調整しています。また、他の病院からの紹介を受ける場合は、その病院の先生や、ソーシャルワーカーの方と直接連絡も取ります。退院前に細かな日程の調整、必要な手続きのサポートをし、ご利用者さんが安心して、当クリニックのサービスを利用していただけるように努めています。

この仕事の醍醐味は、何よりも“感謝”をいただけることです。初めは車いすだった方が杖で歩けるようになって、“ありがとう”という言葉がいただけることが何度もあります。その言葉をいただくたびに、嬉しいです、大切な仕事に関わっていると実感できます。当クリニックには洗練されたサービス、充実したスタッフがおりますので、安心してご連絡ください。わたしが、しっかりと対応させていただきます。

## Close Up

わたしが気分転換でやっていることは、音楽を聴くことですね。主に、ダンスミュージックやテクノ系の音楽をヘッドフォンで、大音量で聴くことが好きです。学生のときは、クラブに行き、音楽を聴くのが好きだったのですが、最近は時間がなかったり、体力が持たなくなりつつあり、自宅で音楽に浸るのが、大切な時間になっています。



## 外来・訪問リハビリの利用方法

山王リハビリ・クリニックをはじめとした関連施設・サービスのご利用者さんがご希望の場合や、当クリニックのスタッフが妥当だと判断した場合、外来・訪問リハビリにつなげるサポートをします。また、当クリニックへお電話や、ホームページからのお問い合わせいただくことで、ご提供につなげることも可能です。お気軽にご連絡ください。お待ちしております。

清泉会  
サービス  
ご利用の方

- 山王リハビリ・クリニック
- 山王リハビリステーション
- ヴィガ・山王リハビリ
- ジップ・山王リハビリ
- 山王リハビリ訪問看護ステーション
- ウェルネスジム山王

当院スタッフに  
ご相談  
いただくことで

清泉会サービス  
ご利用でない方

お電話 **03-5754-2672**  
詳しくは

お電話や  
ホームページから

外来・訪問リハビリ

## 相談窓口

山王リハビリ・クリニック 地域医療福祉連携室では、相談を受け付けております。お気軽にお電話ください。

TEL:03-5754-2672 / FAX:03-3729-3183

URL: <http://www.sanno-rc.com> / Mail: [renkei@sanno-rc.com](mailto:renkei@sanno-rc.com)

## ご寄付の受付について

当法人は、リハビリテーション医療・福祉連携事業を通して皆さまの地域に貢献してまいりたいと考えております。ただ今、ご賛同・ご賛助いただける方々にご寄付を募っております。

## 院長のブログ

「より良く生きる」をコンセプトに日々の出来事を綴っております。



<http://morieiji.blog.fc2.com/>

## 編集後記

インフルエンザウィルスがいよいよ猛威をふるってきました。世界保健機構(WHO)も手洗い・手指衛生(hand hygiene)を「決して付加的な行為ではなく、それ自体が不可欠な医療行為である」としています。インフルで病院フル活動にならないことを祈る今日この頃です。



医療法人社団 清泉会 山王リハビリ・クリニック

2016年2月

# リハビリ・スコープ 13号

～人とのつながりを大切に Quality of Link (QOL) 地域医療福祉連携室～



編集：菊地達夫・速水聡

## 日曜日以外の 全曜日(祝日含む)オープン 地域密着型の外来診療・ 外来リハビリ対応へ!



クリニックでは駐車場も完備しております。

## ◎クリニック営業時間のご案内

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後 14:00~18:00	○	○	○	○	○	○	—

地域のかかりつけ医として大田区の健康診査等を含む一般内科や骨粗鬆症検診も全日対応しております。

こんにちは。山王リハビリ・クリニック副院長/地域医療福祉連携室長の速水聡(はやみずさとし)です。

今回はクリニックで行う医療保険による外来リハビリ(通院)と介護保険で行う訪問リハビリの要職についている療法士4名を中心に紹介させていただきます。

外来リハビリは、理学療法・作業療法・言語聴覚療法の3部門から構成されており、リハビリ専門入院施設と同等水準のリハビリ施設要件を備えております。脳卒中後遺症患者のリハビリをはじめ骨折術後・変形性関節症などの整形外科疾患や神経難病、肢体不自由を中心とした障がい児に対するリハビリを日々提供中です。地域に密着したクリニックの取り組みとして、平成27年7月からは祝日も診療、同年10月からは従来休診日であった、木曜日もオープンしました。すなわち平成28年1月現在において、日曜日を除いた全曜日にて外来診療・外来リハビリを提供できる体制が整っております。

クリニック通院が困難な方については、診療であれば訪問診療(医療保険)、リハビリであれば訪問リハビリ(介護保険、介護保険非該当の方は医療保険)のご相談が可能です。要介護認定を既に受けていらっしゃる方は送迎サービスがついた短時間通所リハビリをクリニック内で実施することも可能です。

平成28年夏よりリハビリテーション科専門医の1名増員も既に決定しております。「より良く生きる」そして「より良く逝く」在宅リハビリテーションを通して、大田区が掲げる「地域力」の向上に貢献する所存でございます。

今後も何卒よろしくお願い申し上げます。

# スタッフ紹介 山王リハビリ・クリニックでは、充実したスタッフが皆さんの「より良く生きる」を支えます！

## ご利用者さんから“意志の強さ”の大切さを教わる

**本間 格** (ほんま いたる)さん  
外来リハビリ担当 理学療法士

外来リハビリテーションで理学療法を提供しています。主に、病院を退院してからご自宅での生活で、まだ課題がある方などに歩き方の改善や車いすからベッドから移動の練習、ご家族が行う介助方法のアドバイスをしています。

特に印象に残っているご利用者さんとして、脳卒中になり体の半分に麻痺を負われた方がいます。運動麻痺のある方は、生活への意欲が出しづらい傾向にあるのですが、そのご利用者さんは、走りたいという強い意志をお持ちでした。わたしは、その考えを尊重した上でリハビリテーションのゴールを医師や多職種と相談しながら、理学療法を行いました。その結果、軽くランニングができる状態まで回復されたんです。そうして楽しみを取り戻し、元気になられた姿を見届けられたことは非常に嬉しい出来事でした。

また、その方から努力の大切さ、強い意志を持つことの大切さを教えていただきました。ご利用者さんの多くは人生の先輩になりますので、学ばせていただくことが常ですね。



## CloseUp

ダイエット目的で、よくランニングをしています。森院長には及びませんが、休日には必ず10km程度、多摩川周辺を走っています。最近、スマートフォンのランニングアプリを活用して、月間何kmを走ったかといったいろんな情報がわかるので、やってみると意外とハマります。今後も継続して行い、楽しみながら、健康維持に努めたいと思います。



## 何かができることが、楽しい生活へとつながる

**田中 克一** (たなか よしかず)さん  
外来・訪問リハビリ担当 作業療法士

外来と訪問の作業療法を提供しています。作業療法の作業とは、日常生活行為すべてを指します。食事をしたり、服を着替えたり、料理を作ったり、洗濯をしたり、会社で仕事をしたり、そうした練習を行います。具体的にどのような作業の練習をするかは、ご利用者さんの生活や、人生の背景、ご本人の要望を踏まえて、決めています。

何かできることがあると、ご利用者さんにとって、プラスに働くことが多々あります。たとえば、障がいを抱える前は、パン作りを習慣にされていたご利用者さんがいました。そこで作業療法ではパン作りの練習を取り入れたんですね。すると結果的に、ご家族の朝食を作るという役割を得ることにつながりました。それまでは、“自分は何もできない”と辛い思いをされていたのですが、存在価値を感じられるような役割ができ、生活に張りも生まれ、ご本人の笑顔が増えました。そういう場面に携われることは、とても誇りに思います。



## CloseUp

走ることが好きです。過去には、森院長と一緒に東京マラソンにも出た経験があります。そのときは、1日長い時で20~30km程度走ってトレーニングしていました。いまは、趣味程度で軽く走っています。その他には、サーフィンを10年程度やっています。主に藤沢・鎌倉方面で波乗りを楽しんでいます。



## ご利用者さんの“心”の声を聞く

**上原 亮介** (かんばん りょうすけ)さん  
訪問リハビリ担当 作業療法士

わたしは、訪問看護ステーションに勤務しています。直接、ご利用者さんのお宅に伺って、リハビリテーションを提供しています。涓泉会には現在8年程度勤務しており、多くのご利用者さんに対応してきました。

その中で、特に大切にしてきたことは、ご利用者さんのことを“知る”ことです。性格や、それまでの人生をどう過ごし、どういう価値観を持たれているのか、そうした内面を理解することに着目してきました。内面を理解することで、ご本人が心の中に抱えている、時にはご本人自身も気付いていなかった本当に大切なこと、やりたいこと、困っていることを引き出すことができると思っています。単に、身体機能に着目するだけではなく、そうしたご利用者さんの“心”の声を聞くことで、ご利用者さんにとってより意味のあるリハビリテーションが提供できると思っています。



## CloseUp

わたしの趣味は、ギターを弾くことです。10分でも20分でも、時間があれば、ギターの練習をしています。休日には、レッスンを受けに行ったり、仲間とのセッションに参加して、楽しんでいます。ジャズ、ブルース、ロックからポップス、昭和の歌謡曲までいろんなジャンルの音楽が大好きです。お好きな方がいれば、ぜひお声かけください。



## コミュニケーションや、食事など、人間の根源的な喜びに関わる

**佐藤 かわり** (さとう かわり)さん  
外来・訪問リハビリ担当 言語聴覚士

主に脳梗塞や脳出血の後遺症で、言葉に障がいを持った方に対し、言語療法を提供しています。内容については、患者様それぞれに合わせた言語訓練、発話訓練を行なっています。また、食べること(飲み込み)に障がいを持っている方には摂食嚥下のリハビリテーションも提供しています。具体的には、舌の運動練習などのお口の体操や発声・発音練習、呼吸の練習を兼ねて歌うこともあります。

後遺症により話にくくなることはショックが大きく、自信をなくし、内にこもってしまう方も少なくありません。そのためリハビリテーションやコミュニケーションを通して少しずつ経験を積み重ね自信を持っていただきます。

食事についても、どうすれば食べやすくなるのか、食事形態についても(ミキサー食、キザミ食、やわらか食など)ご家族にアドバイスすることもあります。過去に胃ろうで、口から食べ物を摂取できないご利用者さんに対し、リハビリテーションをした結果、ご飯を食べられるようになった方がいました。そのとき、ご利用者さんが涙を流し喜ばれていたのは、とても印象的です。そうした喜びのお手伝いができることは、とても光栄です。



## CloseUp

以前、腰を悪くしてしまい、その腰痛予防のために、ベリーダンスを始めました。当初は、続かないかと思っていましたが、いまもレッスンに通って、楽しんでいます。また、運動不足解消のために、歩くことを心がけています。写真はレッスンで使用しているヒップスカーフ(腰に巻くことになっているコインがジャラジャラってテンションが上がります♪)とジル(指にはめるミニシンバルで踊りながら鳴らします)です。

